
ジャンケン

さとう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジャンケン

【ZPDF】

N9151E

【作者名】

さとう
ひづる

【あらすじ】

楽勝だと思っていたジャンケン勝負だったが、思わぬ展開に…彼女はこのピンチをどう切り抜けるのか！

男は、ある特技を持つている。

特技という次元は超えているかもしないが、

それは、絶対にジャンケンで負けないということだ。

最初はグー、の時にからかわれてパーを出されてもチョキを出して勝つことができる。

未来が予測できるわけでもないが、ジャンケンに限り、相手が次に出す手がわかるらしいのだ！

この能力あまり意味がないようだが、

男に言わせると、いろいろ利用法はあるらしい。

どうするのかというと賭けをするのだ。

やり方は簡単。男と一対一の勝負をするだけだ。

男に勝てば1億もらえる。負ければ1000万円払う、

賭けは何回でもできるというルールだ。

お金持ちのギャンブル好きな奴は、この賭けにのってくるらしい。

ある日、男はこの話のある女社長にもちかけた。

彼女は、この話にくらいついてきた。

話を聞くと1億円で10回勝負したいといっているらしい。

10回やれば1回くらいは勝てると思っているのだろう。

そして翌日、男はジャンケンをするために、ある場所へ彼女をよんだ。

彼女は、つきつきした表情をしながらやつてきた。

もう勝負に勝つたような顔をしている。

男は、

「お金は準備できたよだな。では始めるぞー」と言って1億円をテーブルに置いた。

すると彼女は、

「いつでもいいわよ！」

といつてテーブルに1000万円を置いた。

お互いのお金を確認して、いよいよゲームスタートだ！

男は、

「かけ声は簡単にジャーンケーンポン！ で行くぞ！」

と言った。

彼女は、

「わかったわ！ いつでもビリヤー！」

と言った。

それでは1回目 勝負！！

「ジャーンケーン！！」

男は、この瞬間にひらめく！！

（ん？ チヨキが頭に浮かんだぞ！ ところが）とはグーを出せば勝てる！！

と思つた。

「ポン！！」

彼女はチヨキ、男はグー、当然男の勝ち。

「あら、負けちゃつたわ」

彼女は少し悔しそうだ。

彼女は、「よし、2回目いきましょー！」

と言しながらテーブルにさらに1000万円を置いた。

それでは2回目 勝負！－！

「ジャーンケーン！－！」

男は、
(んーまたチョキが頭に浮かぶ！ といつことは、またグーを出せ
ば勝てる！－)
と思つた。

「ポン！－！」

彼女はチョキ、男はグー、男の勝ち。

「また負けちゃつたわ！」
と彼女は悔しそうに言つた。

彼女は、「今度は勝つわよ！」
と言ひながらテーブルにさりこへ1000万円を置いた。

それでは3回目 勝負！－！

「ジャーンケーン！－！」

男は、
(またまたチョキが頭に浮かぶ！ といつことは、またグーを出せ
ば勝てる！－)
と思つた。

「ポン！－！」

彼女はチョキ、男はグー、男の勝ち。

「3回くらい連続で負けることは、よくあるから…」

彼女は、ちょっと動搖してきたようだ。

彼女は、「今度こそ…！」

と言いながらテーブルにさらに1,000万円を置いた。

それでは4回目 勝負…！

「ジャーンケーン…！」

男は、

（今度はグーか！ グーを出す…）

と思った。

「ポン…！」

彼女はグー、男はパー、男の勝ち。

彼女は、

「さすがに強いわね。でも、あと6回もあるのよ」と言って1,000万を置いた。

それでは5回目 勝負…！

「ジャーンケーン…！」

男は、

（今度パーか…）

と思つた。

「ポン……」

彼女はパー、男はチョキ、男の勝ち。

彼女は、

「ここからが本当の勝負よ……」
と言つて1000万を置いた。

それでは6回目 勝負……

「ジャーンケーン……」

男は、

（またパー……）

と思つた。冷静だ。

「ポン……」

彼女はパー、男はチョキ、男の勝ち。

彼女は、

「まだまだよ……！」

と言いながら、1000万を置いた……

そして、その後も彼女は負け続け、ついに最後の10回目になつた。
もう後が無い……。

彼女は、

（まさか……こんなことになるなんて……でも、ここで冷静にならない
と……）

と思った。

そして、

「ちょっと休憩していい？ 気晴らしにコンビニへ行きたいんだけど…」

と言った。

男は、まあいいだろうと思い、一時勝負を中止した。

彼女は、

「休憩中に逃げないでね！－」

と男に言った。

彼女にとつては1億円なんて大したお金ではないので、逃げられてもいいのだが…。

男は、

「逃げるわけないだろ。あと1000万手に入るんだからな」と余裕だ。

彼女はコンビニへ向かった。

そして冷静に考えてみた。

（9回も連續で負けることなど滅多にないはずだけど…あいこが1回もなかつたのも怪しい。

それと、ジャンケンの時、何か集中している感じだったわね…何かいい方法は…）

彼女が帰ってきた。

男は逃げずに待っていた。

「それでは最後の勝負いきますか！」

と男が言つと、彼女は、

「あなたは、ものすごくジャンケンが強い。そこで提案なんだけど、次の勝負に10億かけない？」

と言つた。

すると、男は、

「ほほーう、10億か…いいだろつ」とニヤツしながら言った。

彼女は、

「決まりね！」
と言った。

それでは、最後の勝負…！

「ジャーンケーン…！」

ここで彼女は心の中でパーを出す、と決めた。

勝負が決まるまでパーを出す！ と念じ続けた…。

男は、集中した…。

(ん？ 最後はパーか。 それならチヨキを出せば勝ちだな。 これで
決まりだ…！)

「ポン…！」

男はチヨキ、そして彼女は…えつ…！

グー…！！

何で…！ 何でグーなんだ…！

彼女は、まだ念じている。

そして、しばらくして目を開けた…。

彼女は言つた。

「私の勝ち…私の勝ちだー…！」

町は喜んでいる。そして心の中で、

（なぜだ！！）確かにこいつはパーを出そうとしていたはずだ！！

なぜだ！（

と
思
つ
た。

彼女は、

「私の勝ちね。あと、かわいそだからこの1億で許してあげるね！」

と言つてその場を去つていつた。

歩きながら右手を見て、彼女は言った。

(卷二)

(後書き)

http://www.muroi1.com/sakmok.h
tml
たまに来てね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9151e/>

ジャンケン

2010年10月24日04時01分発行